



AJU 愛実

編集: 特定非営利活動法人愛実の会

- ・愛実の会事務所
- ・居宅介護事業所あみ
- ・生活介護事業所障がい者デイセンター愛実
(大地の家/愛実友だちの家/紙風船)

第15号 会報

定価:一部50円

理事長 島しづ子より	P1
事務局のページ	P2
愛実友だちの家のページ	P3~4
大地の家のページ	P5~6
紙風船のページ	P7~10
「眼に見えぬもの」/南 寿樹	P11
定例会報告	P12
小窓から	P13
寄付者名簿・寄付報告	P14



 **大地の家**
「かんぽの宿三ヶ根にて」



 **愛実友だちの家**
「並木道で紅葉狩り」



 **紙風船**
「スポーツ大会」



自由に暮らす日のために

島 しづ子

秋に車椅子を利用する人と旅をした。車椅子での移動手段に知恵を絞った。当日、名古屋駅までリフトタクシーで楽勝。駅で障がい者用トイレだったが、背もたれが無く困った。ホームへはエレベーター。駅員がスロープをセットしてくれ新幹線に楽々乗車。大型の車椅子なので心配したが、11号車の扉は他よりも広く楽勝。客室に入ってから車椅子のまま目的地までOK。

20年以上前、所属教団の仕事で頻繁に上京。神戸から他の委員が乗って来て名古屋で合流し、東京の会場まで同行した。彼は電動車椅子に乗っていた。新幹線は「障がい者席」が個室で狭かった。東京駅ではホームから荷物用のエレベーターで地下に降り、地下道を通り山手線に乗り換えた。乗り換えの度に、駅員が嫌な顔をした。「予約してくれれば、駅員を揃えますが、急では四人集めるのが大変です」と言うのだ。電動車椅子を階段で運ぶのだから確かに困る。私は駅員が彼を邪険に扱うのが嫌で、彼に「頼むから予約しておいて！」と言った。「いや、僕たちは行きたい時に行きたい所に行く自由がある。だから予約しない。交渉は僕がするから、島さんは隠れていて後から来てくれればいい」と不自由な口で言う。柱の影で見ていると、急に現れた車椅子の彼に改札口の駅員は困惑し、長く彼を待たせ、駅員四人揃えてホームまで彼を連れて行った。この旅の終着駅は高田馬場だった。最初、高田馬場ではホームから階段を降りるのに、駅員たちが彼を電動車椅子ごと運んだ。(ああ大変)。しばらくして階段をガタガタ降りていくキャタピラーみたいなものが駅に備え付けられた。彼は車椅子の上で目をぱちぱちさせキャタピラー車で階段を降りる恐怖と闘っていた。その後昇降機が取り付けられた。あれは彼が一人で闘い続けたような気がする。

今回、同行したアシスタントのKさんが、新幹線の中で、「車椅子には狭いですね。」と言った。三人並びのシートを一個はずして、車椅子用にするのだから狭い。が、私は「あるだけいいよ」と思っていた。予約していたからでもあるが、駅員も車掌もにこやかに対応してくれ、スムーズだった。御年寄りもこのことで助かっていることだろう。自由を求めて闘った人たちのおかげで、全ての人々が過ごしやすくなる。いいことだ。「あるだけいいよ」と思った私だが、あの神戸の彼の闘いを思うと、Kさんのように「これでは狭いですね！」と言わなくてはならないだろうな。

「サウンド・オブ・ミュージック」で修道院院長が歌うアリアがある。希望が湧いてくる歌だ。「すべての山に登ろう、高き山も低き丘も捜そう わき道も、あなたの知っている小道も辿ろう、すべての山に登ろう、すべての小川も渡ろう すべての虹を追おう、あなたの夢を見出すまで 必要とされる夢を、あなたが与え得るすべての愛を 後略」

愛する人たちと私たちがもっと自由に暮らせる日まで夢を持ち続けよう。
みなさま、今年も私たちの夢に寄り添って下さりありがとうございました。
どうかお元気でよきクリスマスと新年をお迎えください。



全国大フォーラムに参加して

中森 由哉

まだ秋の半ばだった 10 月 29 日（金）に全国大フォーラム（主催：10.29 全国大フォーラム実行委員会・日本障害者協議会・障害者の地域生活確立の実現を求める全国大行動実行委員会・全日本ろうあ連盟）に参加しました。このフォーラムは、2005 年 10 月 31 日に「障害者自立支援法」が成立して以来毎年行われているものです。私自身今回 4 回目の参加でした。過去 3 回はわりと暖かい日だったのですが、今回は結構寒さを覚えました（重度の障害のある方にとっては相当きつい寒さだったと思います）。でもやはり参加して良かったと思っています。

「障害者自立支援法」は首を傾げたくなる内容がかなりありますが、大きな問題の一つに応益負担があり、サービスを利用すると 1 割負担のルールで、障害のあるご本人にとっては経済的に確実に厳しくなることと、生活上必要なサービスを受けること—このことは本来国の責任で保障すべきことです—まで本人が利益を受けることと位置づけられています。それから、この法律制定のプロセスについても当事者の声を聴く事や生活の現実を充分見つめることは無かったと言わざるを得ないでしょう。このフォーラムは「障害者自立支援法」に抗議して、障害のある当事者を交えた議論を積み重ねて新しい法律を作ることを求めて実施されています。規模としては 1 万人レベルのもので全国から集まっています。シンポジウムや全国各地からの実態の報告等盛り沢山の内容が野外会場であり、最後はデモで道行く方々にこの課題についてアピールしました（デモも数千人規模のものでした）。

当法人も障害者自立支援法に基づく生活介護事業（通所サービス）と居宅介護事業（ホームヘルプサービス）を実施しています。利用する方の経済的な負担については、現時点では緊急的な措置により相当軽減されていますが、法律そのものは変わっていないというのが現実です。枠組みがそのままである以上応益負担が名実共に固定化する危険もあります。昨年「障害者自立支援法」廃止の具体的動きもありましたが、その一方で最近この「障害者自立支援法」の「改正」案が可決されました。「改正」とは言っているものの根本は従来と同じ内容です（実はこの「改正」案については、今年上半期に出てきてその時は国会のごたごたの中廃案になったのですが、最近同じ内容で登場し、今度は多くの反対にも拘らず成立してしまいました）。こういった動きについて、当法人の利用者の方や事業所も影響を受けるのみならず、他の多くの障害当事者・家族・事業所職員が影響を受けるわけで、自分たちの問題として捉えていきたいと思っています。

愛実友だちの家のページ

あんなに暑かった夏が嘘だったかのように寒い冬がやって来ました。
暑さよりどちらかというとも寒さに強いメンバーが多い愛実友だちの家。
冬の北風にも負けず、体を強くしながら、季節を楽しんでいこうと思います。
今回の会報では、秋の遠足から始まるイベントをご紹介します。
色々な場所で様々な表情を見せてくれるメンバー。
溢れ出す感情の揺らぎやああしたい、こうしたいという欲求の高まりを
お伝えしたいと思います。

(P3~4)

◎秋の遠足◎

今年の遠足のテーマは『異国情緒溢れる場所で旅行気分を味わおう♪』『体験プログラムで美味しい物を作ろう』ということで安城市にあるデンパークでソーセージ作り体験をして来ました。当日は雨が心配でしたが、出発時には晴れ間も見え始め、「あみとも」パワー全開。車での移動が苦手なメンバーも約1時間、ワクワクした様子であっという間に到着しました。

10月の終わりに訪れたので園内はハロウィンムード一色。オバケ大好き、かぼちゃ大好きなメンバー達は、今日は何をやるのかなあとますます期待が高まる様子でした。

散策の後、三河の畜産加工品やお肉、野菜をたくさんいただけるレストラン『花車』でランチ。

普段の給食が美味しすぎてすっかり口が肥えているメンバーですが、こちらのレストランのお味はばっちり合格ラインだったようで、みんないつもよりたくさん食べていたような気がします。

昼食の後はお待ちかねのソーセージ作り。三河ポークのひき肉を天然の羊腸に詰めていく本格派。羊腸に詰めていくのは意外に難しく、空気が入って不格好なソーセージになりましたが、添加物ゼロの秘伝スパイスが効いた本当に美味しいソーセージが出来上がりましたよ。

ソーセージ作りが終わると外は雨・・・。
残念ながら、園内を十分回ることはできませんでしたが、花いっぱい、美味しいものいっぱいのデンパーク。またいつか機会があったらメンバーと一緒に訪れたい場所の一つになりました。

◎ハロウィンパーティー◎

デンパークがハロウィン一色だったとお伝えしましたが、「あみとも」も負けていません。

日本でもイベント感覚でハロウィンを楽しむ習慣が浸透してきましたが、「あみとも」も年々ハロウィンイベントがにぎやかに。力作の蜘蛛の巣飾りにはあるメンバーの似顔絵も。

パーティー当日はこうもりやおばけかぼちゃで型抜きしたクッキーを焼いて、大地、紙風船のメンバーをご招待。お決まりの合言葉が決まればクッキーをプレゼント♪

「あみとも」メンバーの仮装にびっくりするメンバーもいましたが、日常とはちょっと違う雰囲気を楽しめる事ができました。



園内はハロウィンムード満点



羊腸にひき肉を詰める作業



◎蓄音機マスターがやって来た◎

秋というと、食欲、スポーツ、いろいろありますが、やっぱり芸術を楽しまなければ秋じゃありません！

・・・ということかどうかわかりませんが、幸運にも蓄音機マスターとして有名な名古屋学院大学リハビリテーション学部の増田喜治教授にお越しいただけることになり、蓄音機によるレコード観賞をさせてもらうことができました。

メンバーはもちろん、アシスタントの多くも蓄音機を見るのは初めて。

小さな箱を開けると、懐かしいLPレコードをセット。増田先生が愛おしそうにぐるぐるとハンドルをお回しになると。。。。

100年前の音楽がホール全体に響き渡り、みんなその音色にうっとり。ちょっと古い映画の音楽を聴いているようで不思議な気持ちになりました。

蓄音機で音楽を聴かせてもらえる以外に、増田先生がハワイで購入されたというとおきのウクレレを触らせていただいた上に、先生自ら演奏もして下さい、本当に贅沢な時間を過ごすことができました。

増田先生はお話し上手で、ほんの30分でしたがみんなはお腹がよじれて、頬はゆるみっぱなし。是非またお越しいただきたいと思っています。



◎紅葉狩りに出掛けました◎

公園の木々が色づき始め、ちょうど見頃かなという11月下旬のある日、毎年恒例の紅葉狩りに出掛けました。前日は雨降りですいぶんひんやり感じましたが、紅葉狩り当日は透き通った青空が広がる小春日和。気分良く目的地の白鳥庭園に向かいました。

ところが運悪くその日は臨時休館・・・どうしようかと思いましたが、庭園北側の公園の並木道にある桜が真っ赤に色づいているのが見えたので誘われるようにそちらへ。

公園はポカポカ陽気に誘われてお散歩する人や、ゆったり釣りを楽しむ人が多く、メンバーも人の気配や季節の移ろいを楽しんでいる様子。

銀杏の木は見事な黄金色になっていて、思わず記念撮影パチリ。

秋から冬に移り変わる時の、暖かい陽射しの中にあるツンと澄んだ空気を胸いっぱい吸い込んで、良い気分転換になりました。





大地の家のページ

(P5~6)

遠足に行きました♪

10月25日(月)、大地の家みんなで遠足に行ってきました☆昨年はインフルエンザの影響で遠足に行けなかったため、メンバー&アシスタント一同この日をとても楽しみにしていました。今回は少し遠出ということもありいつもよりだいぶ早めの出発です。中には6時半すぎにご自宅を出られるメンバーも。早起きして外出準備をして下さったメンバー&ご家族&ヘルパーの皆様ありがとうございます…!



刈谷PAで合流し、まず最初に向かったのは蒲郡オレンジパーク。ここではみかん狩りを体験します♪みかん畑は結構傾斜がきつく、車椅子で入っていくのは一苦労でしたが、オレンジパークのスタッフの方々のサポートもあり、無事に登る事ができました。車椅子に座っていても手が届く位置に実っているみかんに、メンバーたちは興味津々。目を輝かせて手を伸ばしてみたり、顔を近づけて香りを嗅いでみたり…。どのメンバーも普段のデイにいるときとはまた違った表情や反応を見せてくれていました。スタッフの方から「少しねじると取りやすいですよ!」というアドバイスを受け、自分の手で上手にもいっていくメンバーたち。自分で収穫したみかんを召し上がるその姿はどこか満足気な様子でした。車椅子のままで味覚狩りを行えるところは少ないため、今回が初挑戦というメンバーが多かったのですが、どのメンバーもそれぞれ自分で収穫する喜びやその場で食べる楽しみを感じることが出来たようでした。



次に向かったのはかんぽの宿三ヶ根。貸切の和室で畳に降りてまったり休憩した後はお待ちかねの昼食です☆刺身やステーキ、エビフライ、茶碗蒸し、フルーツなどなど、盛りだくさんの豪華メニューでした。普段の給食よりも量が多かったのですが、食欲旺盛なメンバーたちは皆美味しそうにパクパクと召し上がっていました。ペロリと完食されるメンバーもいらっしゃいましたよ(°o°*)





昼食を満喫した後は温泉♪露天風呂付きの家族風呂を借りきっての入浴でしたので、ゆっくりと天然温泉を楽しむことが出来ました。入浴中の様子は残念ながらお見せすることが出来ませんが、気持ち良さそうにリラックスしたり、プール感覚で楽しんでみたり…どのメンバーもいい表情をしていましたよ(^ ^*)
大地の家のメンバーで温泉に行くのは愛実の会の合宿以来の約5年ぶり。新しく入ったメンバー&アシスタントにとっては初めてのことでした。

入浴用リフト等もないため、転倒しないかや、時間内に終わられるかなど、不安を抱えたまま試行錯誤しつつの入浴でしたが、メンバーの嬉しそうな表情を見てみると、「挑戦してよかったなあ」と改めて思わされました。

帰りは刈谷PAで少し寄り道。長時間のドライブの疲れを感じさせないくらい元気なメンバーたちは、それぞれ自分の好きな飲み物やおやつを購入し、束の間の休憩を楽しまれていました。



当日は体調不良でお休みされたメンバーが多く、全員で揃って行くことが出来なかったのがとても残念でしたが、またメンバーに楽しんでいただけるような遠足を企画したいと思っていますので、来年の遠足も楽しみにしてくださいね♪

紅葉狩り

東山動植物園に紅葉狩りに行ってきました♪私たちが訪れた11月下旬には、すでに木々が鮮やかな赤や黄色に染まっていて、動植物園全体に秋の雰囲気がかかっています。園内は坂道が多く、車椅子を押して歩くのは大変でしたが、紅葉した風景はもちろん、落ち葉の香りや秋の少し冷たい空気などを身体全体で感じて、メンバーもアシスタントも十分に秋を満喫することが出来ました。会報では白黒の写真なのでなかなか伝わりづらいと思うのですが、とっても綺麗でしたよ(^▽^)



日々の活動の様子など随時更新中です♪
大地の家のブログ <http://ameblo.jp/daichi-no-ie/>

紙風船のページ (P7~10)

風が冷たく肌にしみわたる季節となりました。皆さまお元気ですか？
気がつけばすでに12月…。今年は人形劇活動に没頭した一年でした。今回の会報では、
新作人形劇のこれまでを振り返りながら発表に至るまでの様子をご紹介します！

✿ ✿ 新作人形劇が完成するまで ✿ ✿

2009年1月より取り組み始めた人形劇の新作づくりも、2年かかってようやくお客さんに発表できる形となりました。もっと少グループで取り組めて、病院や施設などちょっとしたスペースでも気軽に観てもらえる人形劇を作りたいね！それから平日にも公演をして自分たちの人形劇の幅を広げていきたいね！そんな言葉から始まった活動も2年かかった今、振り返ってみると長かったようであっという間の時間でした。

まずはじめに作品のテーマを決めることから始めました。そして、その後は何度も何度も内容の話し合いを行い台本の手直しを繰り返す日々でした。

それでも、なかなかまとまらず、メンバーもアシスタントも苦しい時期が続き、まさしくこれが生みの苦しみなんだなあ実感した瞬間でした…。けれどなんとかそれを乗り越えやっとのことで台本が形になってきたのが、新作づくりを始めてから1年が過ぎたころでした。



そして、今年度に入り具体的に人形のイメージや動きなどを考えるデッサンの作業が始まりました。実際に自分たちの考えた作品の人形が目の前に形となって出来てきたときは、本当に感動したのを覚えています。みんなで喜び、また同時にこの人形をつかってしっかり表現しないとという思いも込み上げてきました。



夏が過ぎたころからは、紙風船の1か月の予定表は人形劇の練習で埋め尽くされるようになり、毎日毎日3つの作品の稽古へと取り組んできました。

人形制作、演出指導をしてくださっているおばらしげる先生も限られた時間の中で何度も紙風船に出向いて指導をしてくださいました。

そして12月4日の本番が近づいてくるにつれて、メンバー・アシスタント集中力も高まり、だんだんと気持ちが一つになっていくのを感じました。





いよいよ発表会本番の日がやってきました。当日はメンバーの親の方をはじめ、寄付等でお世話になった団体様、ボランティアさん、愛実の会の給食づくり、掃除、送迎ドライバーでいつもお世話になっている方々など、たくさんの方に観ていただくことができました。はじめは、お客さんがどんな反応をするか、喜んでもらえるだろうかとドキドキしていましたが、本番が始まり、会場のみなさんの笑顔や温かい拍手にとっても力をもらうことができました。

3つの作品の上演が無事に終わり「よかったよ!」「楽しかったよ!」と声をかけていただけた時、やっとホッと安心することができ、同時にとてもうれしい気持ちでいっぱいになりました。

今回の作品は、まだ出来立てほやほやで、これからどんどん成長していく作品です。そのスタートをたくさんの方と一緒に過ごせたことを本当に嬉しく思います。2年かかって皆さんに支えられながらここまで来たことを心から感謝し、また大きな自信に変えてこれから、いろんなところで公演していけるよう頑張っていきます。応援よろしくお願いします☆



公演依頼大募集中で〜す!



新作人形劇紹介

☆ぼくたちにできること☆

ある日わんぱく少年の3人が魚釣りにやってきます。けれど釣れるのはごみばかり…。そんな時ある女の子と出会い不思議な体験をします。元気いっぱいの3人組にご注目ください!



☆ポンタとたっくん☆



この作品はボードビルという、セリフのない音楽のみの人形劇に初めて挑戦しています。主人公のポンタとたっくんの友情を音楽と人形の動きで表現しています。

☆かめさんのありがとう

物語に登場するのは、ちょっとまぬけなカメさんにライオンとウサギの3匹です。2枚の動くボードを巧みに操りながら、舞台をいっぱい動き回る、とっても楽しい作品になりました。『ありがとう』の言葉にのせて心のメッセージをみなさんにお贈りします。



あとがき

暖かな12月です。
4日には新作3作品の発表を無事に終えることができました。
ありがとうございます。
皆さんに観てほしいので、公演依頼お待ちしております!楽しい作品ですよ~!
2011年も元気に頑張ります!
応援よろしくお願いします!

メンバー 鈴木重利

<メンバーの思い>

毎日が初舞台の気持を忘れずに…

潮田 則行

私は紙風船に入り、4年目になります。人形劇では音響でいつもいい緊張感をもって演じています。

毎回、いい時もありますが、悪い時もあります。舞台上で演じるメンバーとのキャッチボールしているのが音響の役割だと思っています。

毎日が初舞台の気持ちで演じています。それははじめての場所・はじめて出会うお客さんが新鮮に感じるからです。拍手をもらおうと嬉しいしお客さんが背中を押してくれてるように思います。

2年近くかかって創った小作品が完成し、12月4日発表会が無事に終わりました。やりとげた達成感がありました。これからもあらたな出会いを求めていきたいです。

毎日が初舞台の気持ちを忘れずに……

<協力者の思い>

継続は歴史を作る

おぼらしげる

今回の新作造りの構想は2年ほど前から始まりました。施設も充実し、スタッフも揃い始め、仲間の人数も増えました。今ある作品では、全体で行動しなければならず、スタッフ、仲間も、そして迎えてくれる主催者も大変でした。

なんとか少人数で動ける作品を、何度かの試行錯誤の末、今回の作品が誕生しました。

紙風船との出会いは、もう14～5年前になります。高校生の仲間も30歳になります。色々な出来事を乗り越えて、今が有ります。

新作発表会が初舞台の仲間と、スタッフが何人かおります。この人たちが、不安を抱えながらも、ほとんどトラブルもなく初舞台を踏むことができました。このことは、実は大変なことなのです。稽古での皆さんの頑張りももちろんですが、タイトルのように積み重ねられた歴史と経験のなせる業です。

紙風船が立ち上げられたところを知る仲間は数人です。スタッフに至っては0です。しかし、仲間が一人増え二人増え、スタッフが入れ替わるたびに経験は受け継がれ、今日に至りました。舞台上に上がること、台詞を話すこと、大勢の人の前に立つこと。初めから出来たものではありません。稽古を重ね、公演をかさね、失敗や、不安を乗り越えて来たからこそ、出来る事なのです。

また新しい歴史の始まりです。2010年12月



【公演だより】

第120回 2010年12月4日(土) 紙風船新作発表会 11:15~12:45
「カメさんのありがとう」「ポンタとたっくん」「ぼくたちにできること」

新作発表会という事で、今回3つの作品を同時に上演しました。木場町に移転し、こうして自分たちの施設で公演ができたことうれしく思います。今回が初デビューのメンバー・アシスタントもたくさんいました。これから新たなスタートとして、いろいろなところで公演ができるよう頑張っていきます。新作発表の成功を応援してくださった皆さん、本当にありがとうございました。



第121回 2010年12月8日(水) 障がいのある人を理解する研修会 13:30~
港区障害者自立支援協議会主催 港文化小劇場「ポンタとたっくん」

新作が完成してから初の一般の方へ向けての公演でした。会場はとても広く、たくさんのお客さんでいっぱいでしたので舞台裏で出番を待っている時は、とても緊張しました。新作ができてから初めての平日公演を無事に終えることができよかったです。また皆さんの感想を聞きながら、より良い作品になるよう頑張っていきたいと思います。

<公演のお知らせ>

◆ 2011年1月29日(土) 南区役所講堂 13:30開演 「カメさんのありがとう」
第2回 支えあいのまちづくり事業にて公演
いのちの輝き ~障がいのある人たちとの共生を考える~
南区障害者自立支援協議会・南区役所主催

***** 紙風船の人形劇の他、歌・バンド演奏等もあります！
入場無料です！ぜひ観に来てください *****

目標額達成☆ 紙風船夢づくり基金のご協力ありがとうございます！

人形劇制作費として、これまで何度か呼びかけをさせていただきました紙風船夢づくり基金が目標額(150万円)を達成しました！これも寄付をしてくださった皆様のおかげと大変感謝しています。おかげで、無事に新作発表も終えることができました。そして今後は宣伝活動を行い、どんどん公演活動に励んでいきたいと思っております。また同時に人形のメンテナンス等、活動の資金はまだまだ必要となりますので、合わせて今後とも夢づくり基金へのご協力よろしくお願いいたします。

宣伝活動も行いました

☆人形劇資金としてご寄付いただいた団体の皆さま☆

- ・知多信用金庫様「夢サポート」事業
- ・名古屋樟ライオンズクラブ様
- ・NHK文化厚生文化事業団様「わかば基金」より支援
- ・その他「紙風船夢づくり基金」へご寄付いただいた皆さま



眼に見えぬもの

南 寿 樹

先日、名古屋で活躍している劇団の合同公演「わが町、名古屋」（市民芸術祭）を観た。昭和35年から数年間の名古屋下町の生活。隣どうしの幼馴染が結婚し、やがて二人目の子を出産する。しかしその難産で妊婦が亡くなり、魂だけになって14歳の誕生日にもどるという話。そこはいつもの朝、新聞を受け取り、ご飯をつくり、子ども（自分）を起こす母を見る——穏やかでゆったりとした死後の世界から見るとなんと慌ただしくせわしない生活——しかし淡々と繰り返されるなんでもないような毎日がいかに輝いていて幸福だったかに気づく。観劇後の感動の余韻に浸っているとき、訃報が入った。・・・「純一君（高1）が亡くなった」

純一との思い出は少ないが、頭に二人で過ごした春の日のことがふわっと浮かんできた。純一は難病と闘っていた。この日はまるで神様がその健闘をたたえてプレゼントしてくれたような天気で彼の病状も安定していた。私は久しぶりに登校した彼を誘って給食室南側の竹林に連れて行った。そこには細くてかわいい竹の子達が土の上にちょこんと顔を出していた。「お母さんに、持って行ってあげよう」と言うと、にっこり笑う純一。「あつ、あそこにもあるよ」「ほんとだここにも」両手いっぱい竹の子を持って母のところへ・・・「まあすごいわね」と喜ぶ母。照れくさそうに笑いながらタンポポを見る純一 —— 彼はとても照れ屋さんだった。その後純一は病状が不安定になり、学校には来られず闘病の日々が続いていたのだった。

「純一とはもう会えない」と思った時、私は亡き母との別れの瞬間を鮮明に思い出した。白い病室で静かに息を引き取った母。その時悲しみよりもまずは力が抜け、次に喉から胸にかけて息が詰まった。やがて目のふちから染み出すように涙があふれ、声を出さずに泣いた。

「お母ちゃんとはもう会えない」—— どうしようもない悲しみが重く深く私を包み込んだ。私が幼少のときは貧乏で働きに出てたお母ちゃん。（私はお母ちゃんと呼んでいた）それでも劇で観たように毎日毎日、朝ご飯の支度から洗濯、掃除…お母ちゃんはいつも私を見守ってくれていたのだろう。大けがをしたときも病気をしたときもお母ちゃんはすぐそばにいてくれた。うれしい時も悲しい時も……生まれた瞬間から最期の瞬間まで母の愛はずっとそこにあった。「毎日」という字の中には母がいるという（日野さおり）……近すぎて見えない愛だった。

そもそも愛する人との別れは、絶対に避けられない。どんなに努力しても避けられない。ではどう乗り越えていけばよいのだろうか —— 私は、思いっきり泣くことにしている。「涙の後に立ち上がる」と書いて「泣く」（漢字幸せ読本）涙の数だけ人は生まれ変わるという。そしてその後に、私は「亡くなった（別れた）人に恥ずかしくない生き方をしよう」と誓う。そう、その生き方とは、一瞬一瞬を大切に作る生き方。なんでもない日々を大切に生きたい。それにしても本当に大事なものは、眼には見えず、私たちは気づかないのかもしれない。

屋のお星は 眼にみえぬ。

見えぬけれども あるんだよ

見えぬものでも あるんだよ

金子みすゞ

出典「金子みすゞ全集」

定例会報告

文責：中森 由哉

今年度第2回定例会を9月25日（土）に、第3回定例会を11月27日（土）に開催致しました。以下、その時の内容を記させていただきます。

◆ 第2回定例会

テーマ：「独自サービスについて」（12月より実施）

利用者のニーズについて、制度にのっとった形でのサービス提供を前提に、現制度では対応することのできない緊急時などのケースについて、法人独自のルールを設けることによって、できる限りの対応をしていくことを目的として行っていきます。

サービスの内容

- ① 通所サービスでの時間外支援（見守り・必要な介助等）
- ② 入院時の付き添い

<話し合いで出た意見等>

- ・ 料金は法人独自に設定。人件費が賄える程度の額を目安に考える。
- ・ 現実には緊急的な場合の利用となることから、それに応えていくのが本旨。
- ・ 人材確保、ニーズに対応できる支援体制が不可欠。
- ・ 利用者のニーズを具体的に知るためには個別の聴き取りが必要。
- ・ 独自サービスを実施した際は、記録をしっかりと採ること。

◆ 第3回定例会

テーマ：「愛実の会の居宅介護の理想のイメージと、その実現のために必要なこと」

メンバーの将来の生活サポートのために、居宅介護（ホームヘルプ）が大切な役割を担っていくことから、これからの方向性・ビジョンなどについて、定例会のテーマとして焦点を当てることにしました。

<話し合いで出た意見等>

- ・ 通所サービス以外の時間を豊かに：夕方や休日の余暇支援の充実→外出のサポート等
- ・ 様々な属性の方にヘルパーとして関わって頂くことが必要である。
- ・ 通所サービスの様子を知っている人がホームヘルプに関わってくると安心である。
- ・ メンバーの親が元気なうちから他人のサポートで生活する経験を豊かにしたい。
- ・ 医療的ケアの必要な方の生活支援についても取り組んでほしい。
- ・ ニーズがあっても遠慮していたり、十分に利用者のニーズを掘り起こせていないのでは。
- ・ コーディネーターの重要性：わからないことや具体的な計画等の相談できる専任のスタッフが必要ではないか。
- ・ 家族やヘルパーの話を聞いて適切な援助を提案できるスタッフが必要

法人として、定例会の協議内容を今後の歩みに生かして参りたいと考えております。

「小窓から」 10

大野 義徳

健常者は自由、障がい者は不自由、そんな区別がよくなされる。

そういう一面も確かにあるだろうけれど、何か腑に落ちずもやもやしたものを以前から感じている。「障がい者は不自由なんかじゃなくて心が自由なのさ」なんてお気楽主義を拝しているわけではもちろんなくて（こちらの方がよっぽど腑に落ちない考え方だ）、後味が悪いのは、健常者は自由ってところと、わざわざこの二つに区別するということの二つだ。

自由の難しい定義は置いておいて、ここでは「思いのままに」体が動く、といった意味だろうか。それでも健常者は自由なんて言われると、ほんまかいな、と思ってしまう。まさに激しいほどの型にはめられているのが「自由」なのであって、気づかないほど自然な現実だ。

でもこのことは些細なことではかない。気になるのは、この二つをいちいち区別することだ。

健常と障がい、なぜ区別するのか。自由と不自由、なぜ区別するのか。利用者と提供者、なぜ区別するのか。区別とは何か。辞書には「違いによって分けること」とある。ここから一番危惧することは、区別が簡単に差別に繋がることだ。差別とは、「差をつけて取り扱うこと。正当な理由なく劣ったものとして不当に扱うこと。区別すること」とあるように区別と裏腹なのだ。区別することが必要な場面もある一方、差別はいけないと口では言いながら区別という名の差別がまかり通ってしまう、そんな危うさを感じるからこそ、腑に落ちないものがあるのだろう。

辛い思いは弱い立場のものしか感じない、そんな悲しい現実をそのままにしておいてはいけない。



★賛助会費

民安 健二 浦野 松子 後藤 尚子 大村 恵子 上泉 建 前田 栄子 高橋明日香
五十嵐ベティ

★紙風船夢づくり

竹山 徹 可知一三四 中森 照子 中森 由哉 戸田 真二 潮田 則行 丹下節子・丹下進
鈴木 純夫 鈴木百合子 名古屋樟ライオンズクラブ

★寄付・その他

伊藤あつ子 中森 由哉 中森 照子 奥村 寿浩 大淵 哲也 中村弥栄子 戸田 真二
中谷 塩子 大村 恵子 伊藤 裕子 木村 睦子 浦野 松子 武嶋 恵子 高橋佐喜男
上泉 建 鈴木 武二 徳永 五郎 五十嵐ベティ 京都みぎわキリスト教会
堤 肇 田瀬教会 栄冠幼稚園 信濃村教会婦人会 日本福音ルーテル復活教会
市民クリスマス実行委員会 在日大韓基督教会名古屋教会女性会

★移転改装費 垣内裕子

【寄付のご報告】

◆「愛の鈴号」を頂きました！

この度、東海テレビ福祉文化事業団様から「愛の鈴号」を頂きました。
当法人の利用者の方は重度の身体障がいのある方がほとんどで、
車椅子のまま乗車できる車両をいただけた事により、
朝と夕方の送迎がより充実することとなりました。
11月18日には贈呈式にお招き頂きました。
大切に用いさせていただきます。ありがとうございました。



◆ イエローレシートキャンペーンより

NPO法人愛実の会は、イオンで毎月11日に行われる「幸せの黄色いレシートキャンペーン」にジャスコ名古屋みなと店様・千種若宮大通り店様・イオン大高店様に大地の家・愛実友だちの家・紙風船がそれぞれ登録させていただいています。
このキャンペーンでは、お客様から集められたレシート合計金額の1%相当の商品を各団体に寄贈して頂きます。今回は千種若宮大通り店様より日中の活動で使用する文具等、大高イオン様からは紙風船に人形劇の衣装をいただきました！一同とても喜んでいきます。寄贈していただいた商品は大切に活用させていただきます。
本当にありがとうございます。

任意団体「障害者・友だちの家・愛実」寄付者名

「寄付金個人・教会」 青本光子 (複数回) 大淵哲也・大淵真喜子 笠谷恵子 見木靖子
高蔵寺ニュータウン教会

「賛助会費個人」 吉谷尚之 (複数回)

「土地建物基金個人」 岩田太万亀 (複数回)

尚、今回の報告は2010年9月6日から12月7日までにいただいた分の報告です。長村

寄付金のお願い

①移転改装 年600万 借入返済（7年）

今年は、港区への移転という「愛実の会」にとって大きな事業を多くの方の協力のもとで成し遂げることができ、本当に感謝申し上げます。

移転改装費4700万円のうち4000万円を銀行融資と個人借入によって資金調達しましたので、次年度から7年間は年600万円の借入返済を行うことになりました。

②マンツーマン体制の充実を目指して（アシスタント増員）

「デイセンター愛実」の大きな特徴として、メンバー×アシスタントがマンツーマンで寄り添いながらの手厚いケアを実践していることにあります。重度の障がいを持つ一人ひとりを大切に、心の声を聴き共に歩いていくために必要だからです。マンツーマン体制を実現することは決して容易なことではありませんが、来春4月には2名の職員を増員します。

更には日中のケアだけでなく居宅での介護にも力を入れていくことを考えています。メンバーや家族の将来への不安を安心に変えていくために、そして「愛実の会」の理念を実践していくために、どうぞ皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

【所在地・連絡先】 ※2010年4月より変更いたしました。

特定非営利活動（NPO）法人 愛実の会

- 居宅介護事業所あみ（ホームヘルプ）
- 障がい者デイセンター愛実（生活介護）

〒455-0021 名古屋市港区木場町9番24

TEL：052-693-5897 FAX：052-691-7889

E-mail info@aminokai.com

ホームページ http://www.aminokai.com

「NPO愛実の会」ご支援のお願い

郵便振替 座番号 00850-6-187490
座名称 特定非営利活動法人 愛実の会

- ◆ 賛助会費 賛助会員となって愛実の会の支援を行うための費用
- ◆ 寄付金 NPO愛実の会の活動に対しての費用
- ◆ 紙風船夢づくり 紙風船の人形製作費、公演活動に関する費用
- ◆ 土地建物取得 将来のNPO土地建物取得費用

1口1,000円 何口でも結構です。

ご支援していただける項目を振込用紙に記載の上ご協力お願いいたします。

※ 年2回（夏号と冬号）に「振込料金加入者負担」の「払込用紙」を同封させていただいています。ご利用下さい。